

平成 21 年度  
土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文  
地方審査 入賞作品

# 最優秀賞

【絵画の部（小学生）】



南陽市立漆山小学校 1年  
小川 駿汰 さん

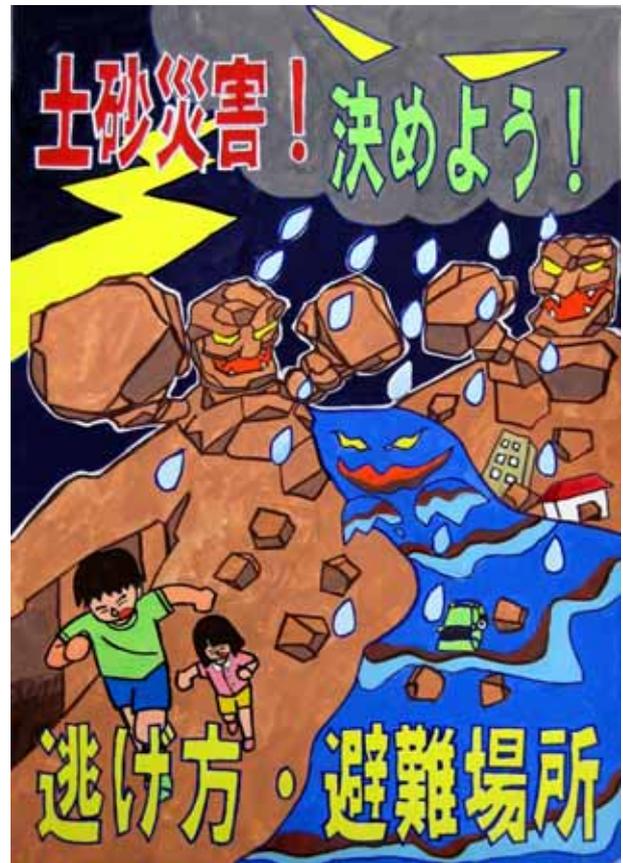
【ポスターの部（小学生）】



川西町立吉島小学校 6年  
奥山 康希さん

砂防部長賞

【ポスターの部（中学生）】



河北町立河北中学校 1年  
小山田 圭佑さん

国土交通事務次官賞

## 最優秀賞

【作文の部（小学生）】

「土砂災害について考えたこと」

高畠町立糠野目小学校 5年 細越 優佳さん

砂防部長賞

「なんで、老人ホームが。」

私はテレビを見ておどろきました。それは山口県の老人ホームでの土砂災害の様子でした。建物の中は、どろ水が人のこしあたりまで達していて、大きな岩がガラスをこわして食堂まで流されていました。そしてお年寄りたちは、建物の屋上で救助を待っていました。中には車いすのお年寄りもいました。必死に救助する人たちもいました。私は、老人ホームにいる大勢のおじいちゃん、おばあちゃんたちは大丈夫なのか心配になりました。

私のお母さんも老人ホームで働いています。お母さんに老人ホームに入っているお年寄りのことを聞きました。お母さんは、

「老人ホームにいるお年寄りは、足の悪い人もいれば、耳のとおい人、聞こえない人もいます。それに、ねたきりの人もいますよ。」

と、教えてくれました。そして、

「目や耳が不自由なお年寄りが、災害などでパニックになってしまい、予測できないけがをするのが一番こわい。」

とも教えてくれました。

山口県の老人ホームでの土砂災害では、私の心配した通り、亡くなった人や行方不明の人がたくさんいることがテレビや新聞の報道からわかりました。また、水が引いた後のどろを始末している様子も見て知りました。本当に大変そうです。私がお母さんに、

「もし、お母さんがつとめている老人ホームの近くで土砂災害が起こったらこわい。」

と聞いたら、

「うん、絶対に来てほしくないよね。災害は何でもこわいけど。」

と、話してくれました。

私は、どうしてこのような土砂災害が起こるのか不思議に思いました。そこでお父さんに聞いてみました。お父さんからは、大雨が降り続いて山の斜面などの土が、水をふくんでやわらかくなり、水と一緒にくずれて川に土砂となって流れ込み、強い力で低い方へと流れていき、土砂災害になるということを知りました。

夏休み中、家族で栃木県のきぬ川に泊まりに行きました。ホテルについたころから雨が降り始め、ひとばん中やむ事はありませんでした。次の朝、ホテルから見たきぬ川は茶色の流れで、木の枝なども混じっていました。水の量も増えていて急な流れでした。ホテルを出て帰る時は、と中の山道が、土砂くずれのため通行止めでした。排水口は流されてきた土砂でうまり、道路には大人の人のひざくらいまで茶色のどろ水がありました。巻きこまれたら本当にこわいと思いました。

この夏休み、私は土砂災害について考えさせられる機会が多くありました。土砂災害は、土石流、地すべり、がけくずれの三つに分けられることがわかりました。このような災害は、人間の力ではどうしようもない場合もあります。また土砂災害には、異常気象を起こす原因になる地球の温暖化の問題なども関係していることも知りました。

私の住んでいる高畠町にも、土石流や地すべりの危険がある屋代川の上流地域があります。土石流が心配される場所は他にもあります。これらの場所は、砂防の事務所の人たちが定期的に点検してくれています。だから、私たちは安心して暮らすことができるのだと思います。けれども、いつ土砂災害がおそってくるのかわかりません。災害がせまってきたら、気象やひなんについての情報を正しく理解し行動すること、地域のみんなで協力してひなんや防災活動を行っていくこと、今年の夏の体験を通して、この二つのことの大切さを強く感じました。

## 最優秀賞

【作文の部（中学生）】

「水の力、自然の力」

長井市立長井南中学校 3年 山口 奈菜さん

七月もそろそろ終わるころ、九州の北部や中国地方では、雨が降り続き、土砂崩れが起きたり、土石流が老人ホームに向かって流れ、多数の死者が出たということがありました。

私がこの被害を初めて知ったのは、ニュースででした。特に印象に残ったのは、土石流のことでした。何度もそのことを放送していたということもありますが、土石流が流れてきた跡が老人ホームに向かってくっきりと、一直線に残っていた上空から撮影した映像を見て、驚いたからです。また、現地に行って被害のことを説明しているリポーターが持ち上げていた、土石流で流れてきた石を見て、その大きさにも驚いたからです。その石は、石ころなんて小さいものではなく、リポーターの手のひらにおさまりきれないほど大きくて、そんな石をいくつも運ぶこともできるような勢いの水が、その石と一緒に建物の中に入ってきたと考えたらぞっとしました。それに、高齢者や体の不自由な人が多い老人ホームでは避難するのは大変だっただろうなと思いました。もう少し詳しく知りたかったのでインターネットを使って調べたところ、道路でも土石流が起き、自動車が流されるということもあった。石だけでなく、自動車までも流されてしまったというほどの水の勢いは、きっとものすごかったんだろうな、あつという間の出来事だったんだろうなあとと思いました。土石流の他には、土砂崩れが起きて、民家が巻き込まれたということもありました。新聞には、巻き込まれてしまった家と、土砂崩れの跡の写真がありました。土砂崩れの跡は、けずられて茶色の土があらわになった所に、倒れた木がところどころにあるだけでした。民家は、壁はぼろぼろになっていて、土砂と一緒に流れた木が民家の近くにあって。もう一つ、九州北部や中国地方では、河川が増水したために起きた民家の浸水や、まだ七歳の子供が河川に流されたということもありました。私の住んでいる場所にも川がありますが、川がはらんしたということや、川に流されたということではなく、どんな様子なのか間近で見たことはないし、台風が日本に上陸したとき、川がはらんして、民家の中まで水が入ってしまったということもテレビに映っている映像でしか見たことがないので、水はこわいと思っていてもどの位の勢いで、どの位の音なのか、どの位こわいのかはよくわかりませんでした。まだ七歳で、小学生でこれからつらいこともあるかもしれないけど、学校の行事など楽しいこともたくさんあるし友達もたくさんできて、自分が将来やりたいことを見つけて、夢に向かって挑戦したり、夢をかなえて活動したりできたはずなのにそれが一瞬にしてできなくなってしまったと思うと、かなしい事故だなあと思いました。それに、増水した川に流されて命を落としてしまったのはその子だけではなく、五歳の子や五十八歳の大人もいました。たった五年しか生きることができなくて、もっと遊んで、友達もつくって、やりたいこともたくさんあったんだろうなあと思いました。行方不明になっていた人も見つかって、命を落としてしまった人の数は数十人という数にまでなりました。これ以上数が増えないでほしいなあと思いながら、このニュースを見ていました。

水の事故が起き、命を落としてしまった人がでてしまったのは、雨が降り続いた九州北部や中国地方以外でもありました。8月に入り、天気もよくなり、気温が高い日もあったし、ほとんどの学校が夏休みになったので、海水浴場に泳ぎに行った人もたくさんいると思います。そんな中、私と同じ位の歳の中学生の子が亡くなったということがありました。友達と一緒に遊んでいて、突然起こったのかなあと思いながらそのニュースを見ていました。中学生となると、部活もあるし、小学校のときとはちがった楽しみがあり、一日一日がとても楽しいです。それなのに亡くなってしまった。その子は、きっと友達と一緒に行事に出て、一緒に卒業したかったんだろうなあと思いました。

今回の雨による被害、海水浴場での事故を通して、「命」という漢字でたった一字、平仮名でたった三字ではあるが何よりも大切なものの尊さ。「水」という私たちが生きていくのに必要であるものの力、本当のこわさを知りました。たった一滴では何も動かせないが、たくさん集まれば土を削れるし、大きな物も動かすことができます。そんな「水」を甘くみていたのかもしれないし、「自然」を甘くみていたのかもしれないな、これからは意識して生活していこうかなあと思った出来事でした。

# 優 秀 賞

## 【絵画の部（小学生）】



最上町立満沢小学校

三年  
佐藤 夏実さん



金山町立金山小学校 6年  
佐藤 武さん

## 【ポスターの部（小学生）】



河北町立谷地南部小学校

三年  
兼子 颯人さん

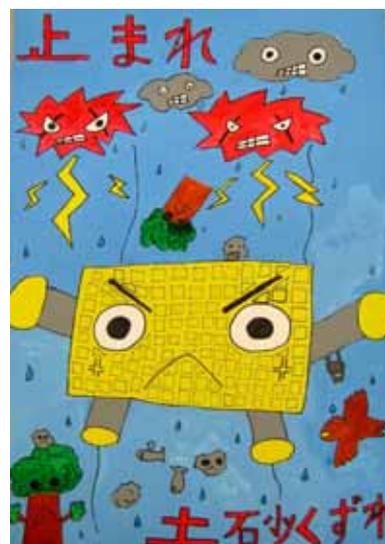


小国町立北部小学校

五年  
伊藤 颯太さん



鶴岡市立大網小学校 5年  
遠藤 明宗さん

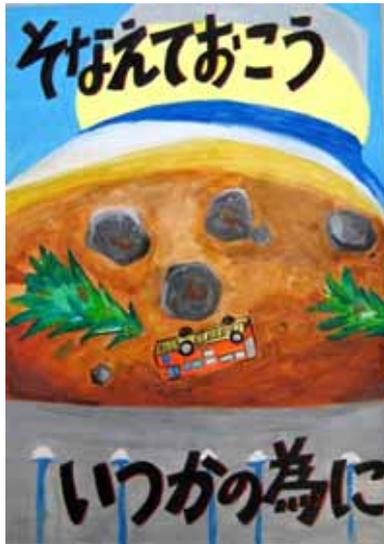


新庄市立日新小学校

六年  
中島 海斗さん

# 優秀賞

## 【ポスターの部（小学生）】



鮭川村立牛潜小学校

六年 齋藤天晴さん



川西町立吉島小学校

六年 小沼優生さん

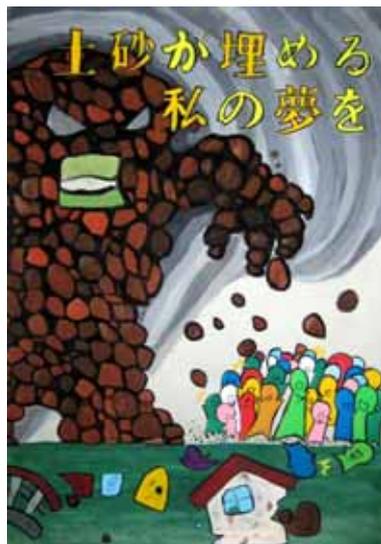
砂防部長賞

## 【ポスターの部（中学生）】



山形市立第四中学校

二年 上原光さん



山形市立第四中学校

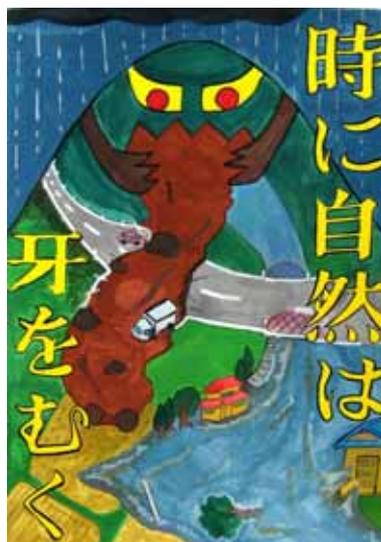
二年 大津彩乃さん

国土交通事務次官賞



山形市立第十中学校

二年 結城美夏さん



高畠町立第二中学校

三年 澁江由来さん

## 優 秀 賞

【作文の部（小学生）】

「へらせたらしいな 土砂災害」

最上町立満沢小学校 3年 佐藤 夏実 さん

土砂さいがいは、人が死んでしまったり、ゆくえ不明になってしまったり、すごくこわいしぜんさいがいです。

この間、山口県の老人ホームで土砂さいがいが起こったニュースを見ました。老人ホームの人たちは、一かいの食堂にいて、ごはんを食べていたそうです。そこに、いきなり土砂が流れてきて、みんなびっくりしたそうです。それに、大きな石が転がってきて、ガラスや老人ホームで使っていた物をこわしたりもしたそうです。死んでしまった人もいるし、ゆくえ不明の人もいました。土砂が流れ終わった後は、どろの川が、老人ホームの中を流れていました。たてものが、ななめにかたむいていました。

私が住んでいる上満沢でも、昔、土砂さいがいが起きました。私が一年生の時の冬、薬師様のうらにある木が雪の重みで、山ごとくずれてきたそうです。木がたおれた時に、薬師様の屋根の右がわのかざりもとれてしまいました。春になって、たおれた木を片づける作ぎょうをはじめたそうです。木は、道ろまではみだしていました。私たちが登校するのにじゃまだから、村の人たちみんなでどけてくれたのです。きかいを使って、少しずつ作ぎょうを進めていったそうです。そのおかげで、安全に登校できるようになりました。今は、太いみきの上に、巨大な根っこが積み重ねてあります。山の上の方は、土砂がくずれて、つるつるのかべになっています。たくさんの土がくずれて、土といっしょに根っこがすべり落ちて来たのでしょうか。もっと雪が多かったら、お堂も流されて、自まんのわき水も止まってしまっていたと思います。

私は、土砂さいがいは、おそろしいと思いました。土砂の力で、たて物がこわれたり、どろや大きな石が流れて来たり、いのちがなくなったりしているからです。さい近、雨がずっとふっているせいかなあとと思います。雨は、人間の力では止められないから、おそろしいのだと思います。雨のふりかたについてのかんさつや実けんをして、雨のりょうがちょうせつできるといいなあとと思います。それに、山に木をうえたり、川の作り方を研究したりして、土砂さいがいをへらそうとがんばっている人もいるそうです。その研究を早く進めてほしいです。

## 優 秀 賞

【作文の部（中学生）】

「自分の身を守るために」

白鷹町立西中学校 3年 丸川 あいさん

今、日本やいろんな国で土砂災害が相ついでいる。夏の梅雨の時期や、台風、大雨、強い地震などが起こると、被害が出てくる。このような異常現象が起き、土砂災害での事故がたくさん起きていることで、たくさんの死者がでてきている。

土砂災害が起こりやすい時は特に、長く強い雨が降っている時や、強い地震が起きた時である。このような時に、よく起きている事故は、土砂がくずれ、走っている車に落ちる事故や、生き埋め、交通マヒなどだ。走っている車に土砂が落ちてくると、ガケのほうに流されてしまったり、車の中に埋められたりして亡くなってしまう。車に落ちてこなくても、道路に落ちてきて車が通れなくなり、交通マヒが起きてしまう。今までの例を見ると、新潟中越地震や、阪神淡路大地震、ゲリラ豪雨などと、強い刺激がある時に起きている事がよくわかる。

土砂災害が起こる例は、強く長い雨や強い地震であることがわかっている。このような異常気象が起こる理由として考えられる事は、地球温暖化だ。まず人は、よく森の木を切っている。車に乗ることで、ガスを出し二酸化炭素をたくさん出している。地球を汚すことで、天気も地球自体もおかしくなってしまう。天気がおかしくなれば、急に強い雨や雷雨がなる事もあるだろう。地震の方は、日本は多いと言われるから急に起こったりすることは仕方がない。だが、環境の方は今からでも注意すれば異常な雨などはおそらく降らなくなるだろう。そのためにも私達がすべき事はたくさんある。まず例として、ECO だ。電気をこまめに消す、二酸化炭素をむやみに出さない、マイバッグを使う、川を汚さないなどと、今から注意してくい止める事はいくらでもできる。土砂がくずれ落ちて、家がつぶれてしまう側の方にも、こんな事が起こってほしくないなら、自分から地球のために、環境のために、二酸化炭素を出さない、というような工夫をしてほしいと思う。だが、一部の人達だけではなく、日本の皆、世界の皆もだ。一人一人の小さな事でも地球を変える事はできると思う。今の土砂への設備は、そこまで特別な事はしていない。だからこのような設備をしてほしいと思う。まず一つ目は、砂防ダムだ。この砂防ダムをつけることによって、土砂がくずれ落ちてきた時のためにくい止めてくれる。岩が落ちてきた時に止めるフェンスをよく見かけられるが、前のニュースで岩がフェンスをやぶって転がり、人間に乗っている人に当たり死亡したという例がある。次も同じような事が起こらないためにも、土砂をくい止めるためにも、砂防ダムは必要だと思う。二つ目は、木を植える事だ。今、たくさんの人達は森の木を切っている。木がたくさんあれば、雨が降った時にたくさん水を吸収し、地面が固い強いのがつくられる。それに、木がまばらに植えられている事によって、岩や土砂がくずれ落ちてきたときに木で止められる。それだけではなく、二酸化炭素を吸収する事もできる。このように、木を植えるだけで土砂災害が起こらないための防止ができる。ぜひ、今言った意見を参考にしてほしいと思う。

土砂災害が起きないようにするため、私達が注意していくべき事はまず、車に乗らない事である。遠い所まで行くのは本当に仕方がないと思うが、車に乗ってガソリンを使ったり二酸化炭素を出して環境を悪くするより、自転車に乗って移動したり、近い所なら歩いていくことが大切である。そういう面でも、自分から家族の方に呼びかけをしてお互いに注意しあっていくことが必要だろう。

最後に、強い雨が降り続けている時などには、絶対に土砂の所へ近づかないことが必要だ。車で出かけている途中でも、くずれ落ちてきそうな場所には自ら行かないようにする事が大切だろう。自分の身を守るため、他の誰かを守るため、異常気象という問題を考えてみませんか？

# 佳作

## 【絵画の部（小学生）】



南陽市立漆山小学校  
1年 鈴木 玲音さん



鶴岡市立羽黒第二小学校  
1年 五十嵐 翼さん



河北町立溝延小学校  
二年 航佑さん  
小山田



西川町立西山小学校  
五年 佳奈さん  
小川

## 【ポスターの部（小学生）】



白鷹町立荒砥小学校  
2年 鈴木 里彩さん



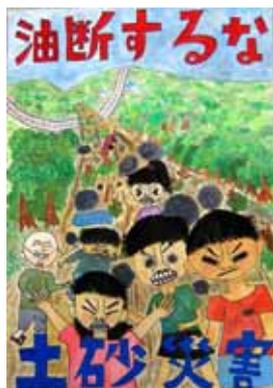
南陽市立沖郷小学校  
3年 庄子 幸汰さん



寒河江市立寒河江小学校  
4年 水戸部 朱里さん



寒河江市立南部小学校  
小林 新さん



河北町立谷地南部小学校  
兼子 梨緒さん



新庄市立日新小学校  
4年 長山 大悟さん

# 佳作



寒河江市立南部小学校 五年  
板垣 勇之介さん



新庄市立新庄小学校  
6年 菅 拓也さん



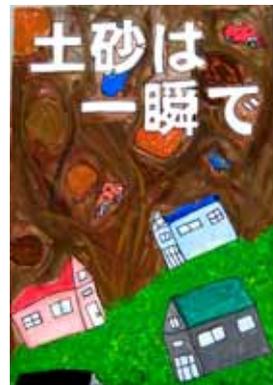
新庄市立新庄小学校  
6年 森 舜さん



新庄市立新庄小学校 六年  
齊藤 慶悟さん



新庄市立新庄小学校 六年  
池田 光太さん



新庄市立新庄小学校 六年  
佐藤 瑠奈さん



新庄市立日新小学校  
6年 後藤 愛さん



新庄市立日新小学校  
6年 小野 玲菜さん



新庄市立日新小学校  
6年 門脇 優菜さん



新庄市立日新小学校  
6年 中沼 沙也さん



新庄市立日新小学校  
6年 青塚 舞さん



新庄市立日新小学校  
6年 岩淵 彩加さん

# 佳作



米沢市立北部小学校  
6年 江村 哲朗さん



川西町立吉島小学校 六年  
前山 俊記さん



川西町立吉島小学校 六年  
早坂 昭慶さん



白鷹町立鮎貝小学校  
6年 長岡 いづみさん



酒田市立富士見小学校  
6年 金城 未来さん

## 【ポスターの部（中学生）】



山形市立第十中学校  
1年 高橋 京子さん



舟形町立舟形中学校 一年  
富樫 舞依さん



舟形町立舟形中学校 一年  
高橋 瑞希さん



山形市立第四中学校 二年  
鈴木 結さん



山形市立第十中学校 二年  
山口 紗英さん



山形市立第十中学校 二年  
前川 桂月さん

# 佳作



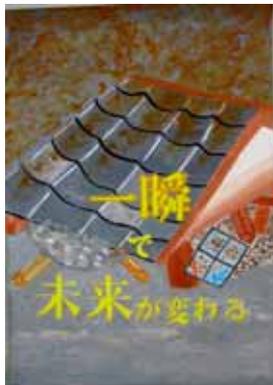
寒河江市立陵西中学校 二年  
伊藤 駿さん



米沢市立第七中学校 二年  
中善寺 舞さん



高畠町立第二中学校  
2年 斎藤 美維奈さん



鶴岡市立藤島中学校 二年  
板垣 里佳さん



山形市立第十中学校 三年  
稲村 拓也さん

## 佳作

【作文の部（小学生）】

「どしゃさいがい」

長井市立豊田小学校 鈴木 江梨花 さん

さいきん、どしゃさいがいがあって、にゆうすでもとりあげられています。  
このあいだは、ろうじんぼーむでもどしゃさいがい、きゆうにんのひとが、ゆくえふめいになって、二～三にちたつてから、したいでみつかったひともいれば、そのままわからないひともいました。  
そして、おぼんまえなのに、あっちこちでまた、どしゃさいがいあって、おさないひとからおとしよりまで、はばひろくどしゃさいがいにあっています。  
なぜあめがふってさいがいになるのかなあ。  
わたしのすんでいるところも、やまやかわがちかくにあります。  
もしかして、わたしのところもさいがいになったら、「どうしよう」かとおもいます。  
じしんでもこわいの、どしゃさいがいになったらどうしようと、いまからふあんです。

「土砂災害を防ごう」

米沢市立北部小学校 6年 菅野 翔 さん

七月二十一日、山口県で、家おくや、特養ホームが土石流におそわれ、多くの被害と被害者が出ました。ぼくは、このニュースを見て、「この土石流などでの被害がなくなれば被害にあった人も助かるのになあ。」と思いました。そこで、少しでも自然災害による被害を減らせるようにするために、今、自分ができるのか、インターネットや教科書、本などを使っていろいろ調べてみました。調べてみたところ、こんな事がわかりました。

土砂とは土や砂のことですが、山の土砂やくずれた土砂が雨水や川の水とまじり、ぼくたちにおそいかかり、人、家、道路などが被害を受けることが土砂災害です。土砂災害は大きく、土石流、がけくずれ、地すべりの三種類に分けられます。

がけ崩れは、梅雨や長雨や大雨の時に雨水が地面の土にしみこんで、地盤がゆるみ、突然、土や岩が大きく崩れ落ちるために発生。

土石流は、台風による大雨などが原因で、上流で山がくずれて、その土や石が水といっしょになって発生。

地すべりは、大雨などが原因で、地面の中に粘土層のような水がしみこみにくい層があって、その水が押し上げる作用によって、上の地面がゆっくりと斜面をすべり落ちていくように発生。

これらの事がわかりました。しかし防ぐ方法がわからなければ、何回も起こるだけなので、防ぐ方法を調べた所、木が関係しているのがわかりました。森林がある所では、木が雨水を地下にたくわえさせているのに、森林がない所では、木がないので、雨水を地下にたくわえることができないので、土砂災害が多く発生していることがわかりました。そこでぼくは、「木を減らさないようにすれば、土砂災害が減るんじゃないかなあ。」と考えました。

今、家などを作るために、材料として森林の木をどんどん切っている所をニュースで見た事があったので、地球全体の木が減っている事は知っていました。しかし、このままでは木が減り続けていくだけなので、木を減らさないようにするためには、なにができるか考えました。例えば、家や家具は減らせないので、なるべく紙などのゴミは出さない。カレンダーなどのうら面をメモ帳やおえかき帳にする。パーベキューなどで使う紙コップや紙皿は使わない。コンビニエンスストアではわりばしをもらわない。紙類はなるべくリサイクルをする。などができるのではないかと考えました。他にも、自分ができる事はたくさんあります。牛乳パックをひらいて、資源として、店の回収に持って行く。ティッシュの空き箱を使い終わった後、ひらいて油とりに使用する。その中でも、今、ぼくがやっているのは、牛乳パックをひらいて、リサイクルしてもらい、再生紙にしてもらうという事をやっています。

しかし、土砂災害がなくなるという事はありません。なので、国や県が被害を小さくするために、対策として、地質調査や点検、危険な場所の補強や修せん工事をしてくれています。

なので、自分たちは自分の身をどうやって守るのか考えてみました。危険な所には近づかないことや、防災グッズなどを常に家に用意すること、避難場所を確認しておく必要があると思いました。

今回、土砂災害について調べてみて、自然災害は改めて、怖いと思いました。防災の大切さもとてもわかりました。ぼくの住んでいる地域は大きな災害が起きた事はありませんが、常に気を付けて、生活していかなければいけないと思いました。

## 佳作

「地滑り地域、七五三掛の人々のつらさ」

鶴岡市立大網小学校 6年 渡部 羅夢 さん

私は、七五三掛のとなりの中村に住んでいますが、「地滑りがひどくなったら、うちの中野の小屋もくずれるなあ。」とお母さんが言っていました。七五三掛の地滑りで、家から少しはなれた畑の小屋も、その地滑りのえいきょうを受けています。シャッターもちゃんと閉まらず、小屋もかたむいて、ただ座っているだけでもかたむきそうでした。小屋周辺の土の道も段差がすごかったりもしていて、自転車で段差の所を走ってみると、どこかから落ちたような感覚でした。

最近、新聞で初めて知った情報は、十月になったら、ひがいの大きい公民館と五軒の家がこわされるということでした。私は、このことをお母さんに聞いてびっくりしたし、こわされる家の人は、残念だろうなと思いました。

また、家の人によれば、冬も工事をするということなので、私は、「雪が多いこの大網で、冬でも工事はできるのかなあ。」と、少し心配になりました。

実際に七五三掛に行ってみると、三メートルくらいも地面が動いている所もあって、こんなに大きな地滑りは初めて見たので、とてもびっくりしました。

今までは、自転車で七五三掛の入り口までしか行ったことがなかったので、ただ、ブルーシートがかけられてある所や工事をする人がたくさんいることだけしか見たことがありませんでした。今日、実際におくまで行って、ひがいの様子を見ると、こんなにひどいとは思ってもいなかったもので、本当におどろきました。七五三掛に住んでいた人は、すごく残念だったろうし、悲しいだろうなと思いました。

地滑りについて説明する人から、雪解け水のせいで地滑りがおきたということを聞いて、「今年の気温が高かったせいで、雪解けが速くなって地滑りがおきたんじゃないかなあ。」と思いました。

七五三掛の人たちは、今は自分の家をはなれて避難してくらしています。今までは、近所の人達などと一緒に話をしたり、野菜などを分け合ったりして仲よくくらしていたのですが、はなればなれになって、今まで地域でやってきたことが何もできなくなり、さみしいだろうなと思います。

それに、田畑もかたむいて、米も野菜もあまり作れなくなり、米や野菜も買わなければならなくなります。収入も減ってしまって、これからの暮らしに不安を持っているだろうなと、気のどくに思いました。

工事をしている人の説明で、私が一番心に残っている話は、「今回の地滑りは、もうすぐ止まるけど、完全に地滑りがなくなって安心して暮らせるようになるには、十年から三十年もかかるだろうな。それに、全く前と同じように道路を直すことは難しいだろうと思う。」

ということでした。七五三掛の人たちは、どんなにつらいだろうなと思いました。私も、この話を聞いて、とてもおどろいたし、「もう七五三掛に来て自由に自転車でかけ回ることも、毎年見事な花を咲かせる七五三掛桜を見ることもできなくなるのか。」と思うと、七五三掛の人と同じようにさみしい気持ちになりました。

七五三掛の地滑りを止めるために、百億円以上の国や県のお金が使われると聞き、国や県が、私たちの生活を助けてくれていることもわかりました。工事をする人たちも、二十メートル以上も深い井戸の中で、交代で二十四時間体制で大変な作業をしてくれています。がんばって働いてくれる人がたくさんいて、心強いなと思います。少しでも七五三掛の自然や道路が元通りになればと願っています。